

二〇〇五年九月議会 一般質問

2005年9月14日(水) (一番目)

日本共産党 藤木くにあき

日本共産党の藤木くにあきでございます。私は、市民のくらしを優先する市政を推進する立場から、先の6月議会で質問した問題をさらに深める観点から、市長に、5つの項目について質問いたします。

質問の第1は、産婦人科医師の確保の問題についてです。

市長は、施政方針のなかで、「産婦人科医師が不在となり、市内での出産が困難な状況に至っていることは、極めて深刻な課題」と指摘され、6月議会で、「あらゆる手だてを考えてとりこんでいきたい」と答弁されました。そこで、その後のとりくみの状況と見通しはどうなっているのか、また、今後の具体的なとりくみについて答弁を求めるものです。

質問の第2は、新聞紙類の無料収集の問題についてです。

「家庭ゴミの収集を3倍も値上げしたうえ、新聞紙類を燃えるゴミにするのはおかしい」と、多くの市民のみなさんから怒りの声があがりました。市長は、こうした状況をふまえ、6月議会で、「ゴミステーション単位での無料収集の早期実現をめざし検討している」と答弁されました。そこで、検討の結果はどうなっているのか明確な答弁を求めるものです。

質問の第3は、電算システムの点検結果と現状についての問題です。

6月議会でも指摘したとおり、合併までに請負業者が、契約書どおり、電算システムを完成させていなかった問題、さまざま不具合が生じている問題について、具体的に、調査、検討されたと思いますが、その結果と現状はどうなっているのか、改めて答弁を求めるものです。

質問の第4は、しょうばらゆめさくら等の朝市への出荷手数料の助成の問題についてです。

市長は、地域農業の振興は最も重要な施策のひとつと位置づけられています。学校給食、保育所給食等への食材の供給を含む地産地消の推進と地域農業の振興のため、市内にある、しょうばらゆめさくら等の朝市への出荷手数料の一部を助成すべきだと考えますが、市長のお考えはどうでしょうか。答弁を求めるものです。

質問の第5は、ひとり暮らし相談員制度の充実の問題についてです。

合併後、ひとり暮らし相談員の訪問回数が、週1回程度から2週間に1回程度に減らされていますが、高齢者や障害のある方の実状をふまえるなら、少なくとも週1回程度に増やす手だてを講ずる必要があると考えますが、「弱者の視点に立つ市政、お互い様といえる市政を目指す」とされる市長の明確な答弁を求め、私の質問といたします。